

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 井上 正弘

主査 准教授 遠山 晴一
審査担当者 副査 教授 安田 和則
副査 教授 鏡 邦芳
副査 教授 三浪 明男

学位論文題名

人工股関節置換術における骨盤指標の検討と解剖学的再建法の有用性の検討
-Transverse acetabular ligament を指標とした股関節解剖学的再建法の検証-

この論文は二次性股関節症例を中心に **Transverse acetabular ligament**（以下 **TAL**）の走行の解剖学的研究と **TAL** を指標にした人工股関節（以下 **THA**）での臼蓋コンポーネント解剖学的再建法の臨床的有用性について検討した。その結果、従来の一二次性股関節症例と二次性股関節症例との間に **TAL** の走行角度の有意差はなく、またその術中視認性も重度の骨盤変形例も含めて良好であり、二次性股関節症においても **TAL** が骨盤指標として有用なことが証明された解剖学的検討の結果を踏まえ、**TAL** を指標とした解剖学的再建法を臨床応用した。300 例の検討を行った結果、解剖学的再建法による臼蓋コンポーネント再建の臨床成績は良好でありも従来の標準再建法よりも術後成績が優れていたこと。そして術後評価でも再建したコンポーネントのアライメントは良好であった。発表後、副査および主査より走行角度の計測方法とその定義、高度脱臼例など骨盤変形例での実際の手術手技、骨盤形態不良例などの際の対応、従来の方法と相関および誤差、本法での成績不良例の原因について質問がなされ、これら質問に対し豊富な臨床的経験に裏付けられた知識および本研究での知見に基づき適切な回答が行われた。

この論文の内容は **American academy of orthopaedic surgeons** および **Orthopaedic research society** の年次総会で発表され高く評価され、その結果は今後の本邦の股関節外科、人工股関節置換術治療において広く利用されることが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や所得単位なども併せて申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。